



2025年3月期 決算短信〔日本基準〕(非連結)

2025年5月13日

上場会社名 株式会社京都ホテル 上場取引所 東
 コード番号 9723 URL https://www.kyotohotel.co.jp/
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 福永 法弘
 問合せ先責任者(役職名) 取締役経理部長 (氏名) 井手 章 (TEL) 075(211)5111
 定時株主総会開催予定日 2025年6月24日 配当支払開始予定日 2025年6月25日
 有価証券報告書提出予定日 2025年6月23日
 決算補足説明資料作成の有無 : 無
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年3月期の業績(2024年4月1日~2025年3月31日)

(1) 経営成績 (%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期	9,358	2.4	916	△3.8	676	△16.2	771	△17.4
2024年3月期	9,138	24.3	953	—	807	912.7	934	—

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2025年3月期	60.62	—	33.2	4.1	9.8
2024年3月期	74.15	—	60.6	5.0	10.4

(参考) 持分法投資損益 2025年3月期 一百万円 2024年3月期 一百万円

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2025年3月期	16,627	2,660	16.0	134.29
2024年3月期	16,451	1,989	12.1	78.66

(参考) 自己資本 2025年3月期 2,660百万円 2024年3月期 1,989百万円

(3) キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2025年3月期	1,256	△51	△700	3,477
2024年3月期	1,497	△169	△660	2,973

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向	純資産 配当率
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2024年3月期	—	—	—	5.00	5.00	60	6.7	12.0
2025年3月期	—	—	—	3.00	3.00	36	4.9	2.8
2026年3月期(予想)	—	—	—	3.00	3.00		6.5	

上記「配当の状況」は、普通株式に係る配当の状況です。当社が発行する普通株式と権利関係の異なる種類株式(非上場)の配当の状況については、後述の「種類株式の配当の状況」をご覧ください

3. 2026年3月期の業績予想(2025年4月1日~2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,500	1.5	850	△7.3	600	△11.3	600	△22.2	46.41

※ 注記事項

(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 ④ 修正再表示 : 無

(2) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2025年3月期	12,065,400株	2024年3月期	12,065,400株
② 期末自己株式数	2025年3月期	242株	2024年3月期	242株
③ 期中平均株式数	2025年3月期	12,065,158株	2024年3月期	12,065,158株

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

種類株式の配当の状況

普通株式と権利関係の異なる種類株式に係る1株当たり配当金の内訳は以下のとおりです。

(A種優先株式)

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	—	—	40,000.00	40,000.00
2025年3月期	—	—	—	40,113.97	40,113.97
2026年3月期(予想)	—	—	—	40,000.00	40,000.00

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当期の経営成績の概況	2
(2) 当期の財政状態の概況	3
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況	3
(4) 今後の見通し	4
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	4
3. 財務諸表及び主な注記	5
(1) 貸借対照表	5
(2) 損益計算書	7
(3) 株主資本等変動計算書	8
(4) キャッシュ・フロー計算書	10
(5) 財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(セグメント情報)	11
(1株当たり情報)	11
(重要な後発事象)	11
4. その他	12
役員の異動	12

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

当事業年度におけるわが国経済は、社会経済活動の正常化が進む中で、雇用・所得環境の改善を受け、緩やかな回復基調で推移いたしました。一方、ウクライナや中東地域をめぐる紛争の長期化を背景とした不安定な国際情勢により、エネルギーや原材料価格の高止まりが続いております。また、物価上昇の継続による個人消費の冷え込みが懸念されるほか、米国の政策動向が国内景気を下押しする可能性もあり、依然として先行き不透明な状況が続いております。

ホテル業界におきましては、安定的な国内観光需要に加え、円安の後押しを受けて訪日外国人旅行者数が過去最高を記録（2024年は年間36,869千人＝前年比47.1%増）するなど、活況を呈しております。しかしながら、慢性的な人員不足により営業制限を余儀なくされるホテルも多く、需給が逼迫する状況が続いております。また、エネルギーや原材料価格の高騰により運営コストが増加しており、引き続き厳しい事業環境下に置かれております。

このような状況の中、当社におきましては人員不足により一部で営業制限を継続しつつも、国内観光需要およびインバウンド需要を的確に捉え、宿泊部門を中心に売上を拡大いたしました。同時に、物価上昇に伴う様々なコストの増加に対応するため、価格転嫁による販売価格の見直しを実施し、売上および利益の最大化にも努めてまいりました。

一方で、人員不足の課題に対しては、賃金の引き上げや福利厚生充実など処遇の改善を図るとともに、限られた人員の中でも円滑な業務運営が行えるよう、部署間の垣根を越えたヘルプ体制の強化にも努めております。

この他、当社では事業活動に加え、良き企業市民としてSDGs達成に向けた活動にも積極的に取り組んでおります。ホテルオークラ京都では、2024年4月よりWFP国連世界食糧計画（国連WFP）の活動を支援する「レッドカップキャンペーン」に参画しております。宿泊売上の一部が寄付金として国連WFPの学校給食支援活動に役立てられるとともに、アメニティの提供を減らした専用の宿泊プランを設けることで、プラスチック使用量の削減にも貢献しております。また、からすま京都ホテルでは、2025年1月より使用済みのアメニティ（歯ブラシ・ひげそり・ヘアブラシ）を回収して再資源化する取り組みを実施しており、プラスチック製品の廃棄削減（CO2削減）にも貢献しております。

これらの結果、当事業年度の売上高は9,358百万円（前年同期比2.4%増）となりました。損益面におきましては、引き続き徹底した経費節減に努めたものの、エネルギーや原材料価格の高騰の影響、業務委託費を含む人件費等の増加により、営業利益は916百万円（前年同期比3.8%減）、経常利益は676百万円（前年同期比16.2%減）、最終損益は当期純利益771百万円（前年同期比17.4%減）となりました。

ホテル事業の部門別の営業概況は次のとおりです。

(宿泊部門)

安定的な国内観光需要に加え、拡大するインバウンド需要を的確に捉え、収益性を重視した価格設定のもと、積極的な販売を行いました。

ホテルオークラ京都におきましては、客室稼働率は前年と同水準で推移したものの、個人予約の受注を増やしたことで高単価での販売を実現し、前年に続き年間売上記録を更新することができました。

からすま京都ホテルにおきましては、修学旅行をはじめとする団体客の受注は前年並みであったものの、海外からの個人客が大幅に増加したことで、客室稼働率および客室平均単価のいずれも前年を大きく上回り、年間売上記録を更新しております。

この結果、宿泊部門全体の売上高は4,104百万円（前年同期比10.6%増）となりました。

(宴会部門)

ホテルオークラ京都の一般宴会につきましては、受注件数・売上ともに前年を下回りましたが、会議利用の宴会需要は強く前年を上回る売上となったほか、MICE利用や祝賀会などの大型案件が受注できたことで、1件あたりの売上は前年を上回る結果となりました。一方、婚礼宴会につきましては、ブライダルの市場規模が縮小する中、当社でも厳しい状況が続いており、受注件数・売上ともに前年を大きく下回る結果となりました。ただし、下期以降は新規来館数を伸ばすことができ、2026年3月期の予約状況は復調してきております。

からすま京都ホテルにおきましては、毎年恒例の宴会が順調に受注できたことに加え、修学旅行や同窓会などの宴会需要が増加したこと、また当社主催のイベントも好調に集客できたことにより、売上を堅調に伸ばすことができしております。

この結果、宴会部門全体の売上高は2,586百万円（前年同期比4.8%減）となりました。

(レストラン部門)

ホテルオークラ京都におきましては、年間を通じて当社の創立に関わった渋沢栄一や、2024年のNHK大河ドラマで話題となった紫式部をテーマにした新メニューの開発・販売を行うとともに、閑散期には価格を抑えながら付加価値の高いプランを展開し集客促進を図り、売上向上に努めてまいりました。また、「トップラウンジ オリゾンテ」ではこれまで休業していたディナー営業を11月より一部再開したことで、前年を上回る売上となりました。しかしながら、依然として人員不足により営業制限を実施している店舗があることに加え、前年に「カフェレックコート」での惣菜や弁当の販売を終了した影響が重なったことで、レストラン全体の売上は前年を下回る結果となりました。

からすま京都ホテルにおきましては、「中国料理 桃李」で新料理長就任を記念した特別メニューを販売したほか、「バー アンカー」ではボトルフェアやカクテルフェアなどの企画を展開し、売上向上に努めてまいりました。これらの取り組みが功を奏し、既存顧客に加え新規顧客の利用も増加したことで、売上・入客数ともに堅調に推移しております。

この結果、レストラン部門の売上高は2,128百万円（前年同期比2.4%減）となりました。

(その他部門)

テナント店舗・月極駐車場の賃貸料収入や、フィットネスクラブ（ホテルオークラ京都）の会費収入など、安定した売上を計上しております。

この結果、その他部門の売上高は538百万円（前年同期比1.6%増）となりました。

部門別の売上高及び構成比等は、以下のとおりです。

部 門	売上高 (千円)	構成比 (%)	前年同期比 (%)
宿泊部門	4,104,797	43.9	10.6
宴会部門	2,586,414	27.6	△4.8
レストラン部門	2,128,844	22.7	△2.4
その他部門	538,697	5.8	1.6
合計	9,358,753	100.0	2.4

(注) その他部門には、フィットネスクラブ、テナント賃貸料等が含まれております。

(2) 当期の財政状態の概況

当事業年度末の総資産は、前事業年度末に比べ175百万円増加し、16,627百万円となりました。これは主に減価償却等により有形固定資産が432百万円減少したものの、売上の増加等により現金及び預金が504百万円増加したことによるものです。

当事業年度末の負債は、前事業年度末に比べ495百万円減少し、13,967百万円となりました。これは主に長期借入金等の返済、借換えにより516百万円減少(一部内入れ)したことによります。なお、金融機関との良好な関係のもと、長期借入金等の借換えが無事に完了しております。

当事業年度末の純資産は、前事業年度末に比べ671百万円増加し、2,660百万円となりました。これは主に当期純利益が771百万円計上されたことによるものです。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当事業年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、売上・利益の増加により前事業年度末に比べ504百万円増加し、当事業年度末には3,477百万円となりました。

①営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は1,256百万円(前年同期は1,497百万円の獲得)となりました。これは主に税引前当期純利益669百万円および減価償却費696百万円の計上があったことによるものであります。

②投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は51百万円(前年同期は169百万円の使用)となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出が52百万円あったことによるものであります。

③財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は700百万円(前年同期は660百万円の使用)となりました。これは主に長期借入金等の借換え等による返済分が516百万円あったことによるものです。

(4) 今後の見通し

今後も引き続き積極的な営業活動、閑散期対策、業務全般の効率化による諸経費の削減、人材の採用や育成の強化、さらには働き方見直しの推進による労働環境向上を目指します。

次期の業績の見通しにつきましては、売上高は宿泊部門の好調が継続することを見込み、今期よりやや増加の9,500百万円、利益面におきましては引き続きエネルギーや原材料の高騰等や銀行借入金の金利上昇による費用の大幅な増加が見込まれることから、営業利益850百万円、経常利益600百万円、当期純利益600百万円を予定しております。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社は連結財務諸表を作成していないため、国際会計基準に基づく財務諸表を作成するための体制整備の負担等を考慮し、日本基準を適用しております。

3. 財務諸表及び主な注記

(1) 貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2024年3月31日)	当事業年度 (2025年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,973,447	3,477,930
売掛金	592,794	527,951
原材料及び貯蔵品	68,765	68,074
前払費用	43,953	37,342
その他	20,199	10,972
貸倒引当金	△210	△137
流動資産合計	3,698,950	4,122,135
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	7,276,532	6,849,735
構築物（純額）	14,064	12,748
機械装置及び運搬具（純額）	88,782	70,834
器具及び備品（純額）	161,841	143,196
土地	4,890,314	4,889,637
リース資産（純額）	54,655	87,455
有形固定資産合計	12,486,190	12,053,607
無形固定資産		
ソフトウェア	6,883	4,078
リース資産	5,187	47,131
電話加入権	4,197	4,197
商標権	4	-
無形固定資産合計	16,272	55,407
投資その他の資産		
投資有価証券	5,314	5,314
長期前払費用	4,288	6,302
前払年金費用	39,556	77,218
差入保証金	52,334	52,032
繰延税金資産	134,293	241,032
その他	14,630	14,630
投資その他の資産合計	250,418	396,530
固定資産合計	12,752,881	12,505,546
資産合計	16,451,832	16,627,681

(単位：千円)

	前事業年度 (2024年3月31日)	当事業年度 (2025年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	142,489	135,327
1年内償還予定の社債	2,000,000	64,000
1年内返済予定の長期借入金	10,616,000	460,000
リース債務	33,177	33,861
未払金	722,082	646,997
未払費用	93,162	85,225
未払法人税等	4,990	4,990
前受金	61,730	129,393
預り金	53,478	62,628
前受収益	45,513	47,420
賞与引当金	71,520	71,490
その他	41,340	4,512
流動負債合計	13,885,484	1,745,847
固定負債		
社債	-	936,000
長期借入金	-	10,640,000
リース債務	41,452	116,020
長期末払金	23,522	33,576
長期預り保証金	512,284	495,932
固定負債合計	577,259	12,221,528
負債合計	14,462,744	13,967,375
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金		
資本準備金	25,000	25,000
その他資本剰余金	929,635	929,635
資本剰余金合計	954,635	954,635
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	934,632	1,605,850
利益剰余金合計	934,632	1,605,850
自己株式	△180	△180
株主資本合計	1,989,088	2,660,305
純資産合計	1,989,088	2,660,305
負債純資産合計	16,451,832	16,627,681

(2) 損益計算書

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	当事業年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
売上高		
室料売上	3,622,188	3,892,793
料理売上	2,996,633	2,857,084
飲料売上	554,218	541,470
雑貨売上	385,014	383,804
その他売上	1,580,032	1,683,602
売上高合計	9,138,086	9,358,753
売上原価		
料理原価	875,049	866,886
飲料原価	114,950	117,064
雑貨原価	297,108	294,617
その他原価	130,843	108,318
売上原価合計	1,417,952	1,386,886
売上総利益	7,720,134	7,971,867
販売費及び一般管理費	6,767,126	7,055,399
営業利益	953,007	916,467
営業外収益		
受取利息	12	755
補助金収入	3,714	3,347
利子補給金	10,027	9,999
受取手数料	3,177	3,083
基地局設置手数料	3,320	3,320
受取保険金	4,376	2,391
その他	5,544	6,264
営業外収益合計	30,173	29,161
営業外費用		
支払利息	160,420	164,457
支払手数料	8,604	103,419
その他	6,896	1,325
営業外費用合計	175,921	269,202
経常利益	807,259	676,427
特別損失		
固定資産除却損	9,016	6,540
特別損失合計	9,016	6,540
税引前当期純利益	798,242	669,886
法人税、住民税及び事業税	4,991	5,082
法人税等調整額	△141,381	△106,739
法人税等合計	△136,390	△101,656
当期純利益	934,632	771,543

(3) 株主資本等変動計算書

前事業年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本					
	資本金	資本剰余金			利益剰余金	
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計
当期首残高	100,000	25,000	1,559,414	1,584,414	△589,778	△589,778
当期変動額						
欠損填補			△589,778	△589,778	589,778	589,778
剰余金の配当			△40,000	△40,000		
当期純利益					934,632	934,632
自己株式の取得						
当期変動額合計	-	-	△629,778	△629,778	1,524,411	1,524,411
当期末残高	100,000	25,000	929,635	954,635	934,632	934,632

	株主資本		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	
当期首残高	△180	1,094,455	1,094,455
当期変動額			
欠損填補		-	-
剰余金の配当		△40,000	△40,000
当期純利益		934,632	934,632
自己株式の取得		-	-
当期変動額合計	-	894,632	894,632
当期末残高	△180	1,989,088	1,989,088

当事業年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本					
	資本金	資本剰余金			利益剰余金	
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計
当期首残高	100,000	25,000	929,635	954,635	934,632	934,632
当期変動額						
欠損填補						
剰余金の配当					△100,325	△100,325
当期純利益					771,543	771,543
自己株式の取得						
当期変動額合計	-	-	-	-	671,217	671,217
当期末残高	100,000	25,000	929,635	954,635	1,605,850	1,605,850

	株主資本		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	
当期首残高	△180	1,989,088	1,989,088
当期変動額			
欠損填補		-	-
剰余金の配当		△100,325	△100,325
当期純利益		771,543	771,543
自己株式の取得		-	-
当期変動額合計	-	671,217	671,217
当期末残高	△180	2,660,305	2,660,305

(4) キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	当事業年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前当期純利益	798,242	669,886
減価償却費	704,296	696,270
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△168	△73
賞与引当金の増減額 (△は減少)	15,600	△30
前払年金費用の増減額 (△は増加)	△19,011	△37,661
受取利息及び受取配当金	△12	△755
支払利息	160,420	164,457
固定資産除却損	9,016	6,540
補助金収入	△3,714	△3,347
利子補給金	△10,027	△9,999
売上債権の増減額 (△は増加)	△38,333	64,843
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△6,247	690
仕入債務の増減額 (△は減少)	13,749	△7,161
未払金の増減額 (△は減少)	48,426	△75,397
その他	△26,953	△51,209
小計	1,645,284	1,417,052
利息及び配当金の受取額	12	755
利息の支払額	△157,762	△173,640
補助金の受取額	3,714	3,347
利子補給金の受取額	10,027	14,164
法人税等の支払額	△3,651	△5,082
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,497,624	1,256,596
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△168,368	△52,238
無形固定資産の取得による支出	△444	△332
その他	△297	979
投資活動によるキャッシュ・フロー	△169,110	△51,591
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△1,000,000	-
長期借入れによる収入	1,000,000	11,100,000
長期借入金の返済による支出	△448,000	△10,616,000
リース債務の返済による支出	△67,377	△40,031
割賦債務の返済による支出	△105,117	△44,823
社債の発行による収入	-	1,000,000
社債の償還による支出	-	△2,000,000
配当金の支払額	△40,318	△99,667
財務活動によるキャッシュ・フロー	△660,813	△700,522
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	667,700	504,482
現金及び現金同等物の期首残高	2,305,746	2,973,447
現金及び現金同等物の期末残高	2,973,447	3,477,930

(5) 財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

当社は、内外顧客の宿泊、宴会、レストラン等を中心とするホテル経営及びホテル付随業務を事業内容としております。経営資源の配分の決定及び業績評価は当社全体で行っていること等から判断して、報告セグメントが単一であるため、セグメント情報の記載を省略しております。

(1株当たり情報)

	前事業年度 (自 2023年4月 1日 至 2024年3月31日)	当事業年度 (自 2024年4月 1日 至 2025年3月31日)
1株当たり純資産額	78.66円	134.29円
1株当たり当期純利益	74.15円	60.62円

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 2023年4月 1日 至 2024年3月31日)	当事業年度 (自 2024年4月 1日 至 2025年3月31日)
当期純利益	934,632千円	771,543千円
普通株主に帰属しない金額	40,000千円	40,113千円
(うち優先配当額)	(40,000千円)	(40,113千円)
普通株式に係る当期純利益	894,632千円	731,429千円
普通株式の期中平均株式数	12,065,158株	12,065,158株

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

4. その他

役員の変動

①代表者の変動

- ・新任予定代表取締役

代表取締役社長 清水 博 (現 (株)日本政策投資銀行 取締役常務執行役員)

- ・退任予定代表取締役

代表取締役社長 福永 法弘 (退任する福永法弘は新たに取締役会長に就任いたします)

※ 詳細につきましては、本日公表の「代表取締役の変動に関するお知らせ」をご参照ください。

②補欠監査役候補者の選任

- ・補欠監査役候補者 日原 時一 (現 池田泉州オートリース(株) 代表取締役社長)

(注) 補欠監査役候補者 日原 時一氏は、補欠の社外監査役候補者であります。

③就任(退任)予定日

2025年6月24日